

横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に 基づく令和 6 年度の実施状況について

1 温室効果ガス排出量・エネルギー消費量

- ・ 2023(令和5)年度の温室効果ガス排出量は、2013年度比16.8%減の1.7万トン
- ・ 2024(令和6)年度のエネルギー消費量は、2013年度比6.6%減の390TJ

<温室効果ガス排出量及びエネルギー消費量の状況>

上段：実績、下段：削減率（基準年度比）

主な指標	基準値 (2013年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
温室効果ガス排出量[万t-CO ₂]	2.1	1.7	1.6	1.7 (▲16.8%)	—
エネルギー消費量[TJ]	418	357	363	350	390 (▲6.6%)

2 LED等高効率照明・太陽光発電設備の導入等

- ・2024(令和6)年度は、スポーツセンター等にLED等高効率照明を導入し、LED化率は68%となりました。
- ・横浜BUNTAI及び横浜国際プールなど5施設に太陽光発電設備を導入しています。
- ・一般公用車の所有はありません。
- ・職員の取組として、全職員を対象とした環境研修を受講するとともに、クールビズ・ウォームビズやグリーン購入の推進、ペーパーレス化等に取り組むことで、温室効果ガスの排出削減につなげました。

< LED等高効率照明・太陽光発電設備等の導入状況 >

主な指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
LED等高効率照明の導入（累計）	35%	47%	59%	68%
太陽光発電設備の導入（累計）	3施設	3施設	5施設	5施設
一般公用車における次世代自動車等導入	—	—	—	—

3 脱炭素化等に向けた主な取組

(1) イベントでの脱炭素の取組

- ・「ヨルノヨ2024」では、風力発電や太陽光パネル・蓄電池の活用等に加えて、新たに廃食油によるバイオ燃料の利用など、再生可能エネルギーの導入を実施しました。



風力発電（ハマウィング）
（ヨルノヨ2024）

- ・「2024世界トライアスロン横浜大会」では、使用済みペットボトルの回収・水平リサイクルや、ブルーカーボンオフセット等を実施しました。



ペットボトルの回収・水平リサイクル
（2024世界トライアスロン横浜大会）

- ・「横浜マラソン2024」では、先導車への電気自動車の活用等を実施したほか、不要になった衣類の回収・リサイクルにも取り組みました。



衣類の回収・リサイクル
（横浜マラソン2024）

(2) 気候変動による熱中症対策

- ・空調設備が未設置のスポーツセンターの体育室について、エネルギー効率の高い空調設備の設置を行ったほか、施設利用者に対し熱中症予防の注意喚起を行いました。